学校番号	3009

令和８年度　工業科（工学系）

教科	工業科（工学系）	科目	建築・デザイン系製図	単位数	２単位	年次	２年次（AD コース選択）
使用教科書	『製図』（実教出版）						
副教材等	『建築設計製図』（実教出版） 『建築製図の基本の基本』（学芸出版社） 『パーステック３級資格認定試験公式テキスト』（一般社団法人日本ﾊﾟｰｽﾃｯｸ協会）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

鉄筋コンクリート構造は、建築物の基本的な構造形式であり、設計の仕方や考え方、構造の特性について十分に理解しておきましょう。各図面の種類とその縮尺との関係、部材の組立・接合の方法と表現、仕上げ材の取り付け方などの知識と技術をしっかり学びましょう。
また、デザインのプロセスに従った考え方、作業の進め方、一貫した表示技法に重点を置いて作図技法を学習します。グラフィック製品の三面図のトレース演習課題を通じて、寸法の正確さと線の丁寧さ、スケッチの表現方法や着彩方法を身に付けていきましょう。

2　学習の到達目標

・単元毎の演習課題によって製図・設計に関する基礎的・基本的な知識・技術を理解する。
・単元毎の実技演習課題を自ら考え、必要な資質・能力を育成する。
・技術の向上をめざし、授業や課題に自主的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	製図・設計に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における製図の意義や役割を理解する。 設計のプロセスを学び、アイデアを形にする手法を身に付ける。	製図・設計に関する事象について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	製図・設計に関する事象について関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	建築・グラフィックデザイン系製図	線の練習 RC 構造 平面、立面、断面	a: 設計の基礎知識と、図面の種類とその縮尺、部材の組立・接合の方法と表現、仕上げ材の取付け方について理解し、適切な図面表現に意欲的に取り組むとともに、実践的な知識を身に付けている。 b: 図面の種類とその縮尺、部材の組立・接合の方法と表現、仕上げ材の取り付け方について常に思考・判断し、適切な図面表現に意欲的に取り組むとともに、実践的な行動力を身に付けている。 c: 製図に関する事象について関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価
		透視図法 1)一点透視図法 2)二点透視図法・ 3)透視図を用いた工業製品の制作	a:透視図の基礎知識と、基本的な各種図面の描き方と手法を体得し、実践的な技能を身に付けている。製図や透視図の基礎的・基本的な知識を身に付け、簡単な工業製品の完成図を作図するとともに、製図の意義や役割を理解している。 b:製図の基本ルールを理解し、表現できている。 c:製図に関する事象につて関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。また、与えられた課題に関しては、自ら吟味し、必要に応じて様々なメディアを研究し、意欲的に取り組む。	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価

後 期	建築・グラフィックデザイン系製図	自由設計	a:設計趣旨の理解と、設計をするうえで必要な情報の整理とアイデアの出し方、表現の手法を身に付けている。 b:設計趣旨の理解とその解釈が論理的に行われ、解決の手法がわかりやすく表現されている。 c:建築設計に関する事象につて関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。また、与えられた課題に関しては、自ら吟味し、必要に応じて様々なメディアを研究し、探究の根を伸ばしている。	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価	学習状況の観察 提出物 製作品 自己評価 相互評価

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度